

文化・芸術

「あしひちやんごもせちやんご」

1939年、油彩・カンバス
91.0センチ×72.8センチ

(笠木壽子氏寄贈)

笠木實 (1920～2018年)

大川美術館では、10月16日から12月12日まで、企画展「松本竣介《街》と昭和モダン」が開かれます。同時開催で、特集展示「描かれた桐生の『昭和』」として、美術館のコレクションから、昭和戦前期から戦後にわたって桐生の画家たちが描いた作品を紹介いたします。

今回紹介する作品は、桐生出身の洋画家笠木實の東京美術学校時代の作品です。

市内でも有名な「魚問屋」や「魚萬」を経営し、さらに冷凍工場やバスやタクシー会社を経営していた笠木萬吉の次男として生まれました。はやくから美術に関心を寄せるようになり、桐生中学校在学中には、はやくも銅版画の制作を試みています。早熟だった笠木の画技は確かなもので、洋装の少女と白い洋犬を組み合わせたモチーフからは、まさに桐生の「昭和モダン」の生き生きとした明るい空気を感じさせます。

(田中)

《名画の扉》

大川美術館特集展示から

